

次期・生物多様性 神戸プラン骨子

計画策定の基本事項

1 計画策定の趣旨

- 2011年2月に生物多様性地域戦略である「生物多様性神戸プラン2020」を策定、2016年3月に改定を行い、自然共生社会を実現するための施策を推進してきた
- 現在の生物多様性神戸プランの計画対象年度は2025年度までであるため、2026年度以降を計画期間とする次期地域戦略の策定を実施する
- また、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15 / 2022年12月開催）で新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、これに対応した国家戦略である「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定されるなど、生物多様性を取り巻く情勢の変化に応じた改定を行う
- 目標年次は10年後
- 数値目標の設定にあたっては、可能な限り生物多様性を直接評価できる指標に絞り込む
- 市民・企業等、主体ごとに取り組むべき内容を強調・明確化し、わかりやすいものとする。

2 国・県・本市の動向

- 昆明・モントリオール生物多様性枠組（30by30目標など）との整合
- 上位計画（次期・総合基本計画・環境マスタープラン）の見直し・改定との整合
- 「生物多様性国家戦略2023-2030」（2023年3月策定）、「生物多様性ひょうご戦略」（2024年度末改訂予定）等、その他関係する計画を踏まえた考え方の整理
- その他、「TNFD」（企業の生物多様性に関する取組みの情報開示を求める国際的ガイドライン）などの新たな仕組みとの整合

生物多様性神戸プラン（現行戦略）の数値指標・目標の達成状況

No.	指標	基準値【基準年度】	目標値	実績【実績年度】		
1	今は見られない神戸の生きものの種数	59種【2015年度】	59種以上に増やさない【2025年度】	67種【2020年度レッドデータより】		
2	市民参加型生物多様性モニタリングの生きもの	—	8,000件（累計）【2020年度】	生きものマップ 18,825件（累計）【2023年度】 バイオームクエスト 1,882件（累計）【2023年度】		
3	水生生物の確認種数	—	中長期的に見て種数を減少させない【2020年度】	<table border="0"> <tr> <td> 海域調査 魚類 26種 メガロベントス 25種 マクロベントス 春 79種 夏 50種 秋 63種 冬 61種 【2020年度】 </td> <td> 河川調査 地点数 12 魚類 24種 底生動物 138種 水生小動物 98種 藻類 138種 【2021年度】 </td> </tr> </table>	海域調査 魚類 26種 メガロベントス 25種 マクロベントス 春 79種 夏 50種 秋 63種 冬 61種 【2020年度】	河川調査 地点数 12 魚類 24種 底生動物 138種 水生小動物 98種 藻類 138種 【2021年度】
海域調査 魚類 26種 メガロベントス 25種 マクロベントス 春 79種 夏 50種 秋 63種 冬 61種 【2020年度】	河川調査 地点数 12 魚類 24種 底生動物 138種 水生小動物 98種 藻類 138種 【2021年度】					
4	生物多様性に関する市民（20歳以上）の認知度	言葉を知っている 62.5%【2015年度】 意味も知っている 29.3%【2015年度】	言葉を知っている 100%【2025年度】 意味も知っている 60%【2025年度】	言葉を知っている 70.1%【2024年度】 意味も知っている 40.2%【2024年度】		

生物多様性神戸プラン（現行戦略）の数値指標・目標の達成状況

No.	指標	基準値【基準年度】	目標値【目標年度】	実績【実績年度】
5	永続性のある緑地の面積（市街化調整区域における「みどりの聖域」や「人と自然との共生ゾーン」等における主に地域制緑地と、市街化調整区域における公園緑地等と施設緑地の総和）	35,000ha 【2015年度】	35,000ha以上 【2025年度】	35,847ha 【2023年度】
6	新規就農者数	—	5年で250人 【2020年度】	新規就農者数：182人 【2020年度】
	農村への移住・起業	—	5年で100件 【2020年度】	農村への移住・起業：92件 【2020年度】
7	こうべ版GAPに取り組む農家の登録人数（延べ数）	492人 【2015年度】	600人 【2020年度】	460人 【2020年度】
8	ファーマーズマーケット開催件数	9回 【2015年度】	50回 【2020年度】	38回 【2020年度】
9	まち中における緑の面積の割合（市街化区域における緑で被われた面積の割合）	30% 【2015年度】	30%以上 【2025年度】	32.9% 【2015年度末時点】

市民アンケートの結果

市民アンケート

2024年12月、神戸市の自然や生きものへの意識調査をネットモニター10,026名に送付、4,248名が回答（回答率42.8%）

- 生物多様性に関する言葉の認知度について、「生物多様性」が約70%、「外来生物」が約80%の認知度があることが分かった。一方、「ネイチャーポジティブ」、「生態系サービス」については認知度が30%程度に留まった。
- 生物多様性の減少原因として、人の手が入らなくなったことによる影響もあるという点については認知度が低かった。
- 95%を越える人々が何らかの理由で外来種の防除が必要だと感じていることがわかった。
- 80%近い人々が生きものや自然環境の保全活動に参加したことがないことがわかった。
- 保全活動への参加に必要なものとして、交通手段やトイレといったハード整備と、活動費用や専門家の指導といったソフト面でのサポートが多く選択されていた。
- 大切と思う自然体験としては、自然の中に身を置き、身体を動かしたり、安らぎを得たりすることだとする回答が多くみられた。
- 自然のめぐみとして感じやすいのは食料や水、空気といった直接的なもので、文化活動や加工品と
- いった副次的なめぐみよりも認知度が高い結果が出た。

総括

- 生きものや自然環境の知識や、外来種の防除には比較的高い認知度や一定の理解があった一方、保全活動などの行動には必ずしも繋がっていない、という結果が得られた。
- 保全活動への参加するために必要なものに関しては、ハードやソフトの環境整備だけでなく、家族との参加や体力・時間などの余裕が必要とする回答も比較的多くみられた
- 自由意見の中に多かったのが「活動があること知らなかった」、「広報に力を入れてほしい」という意見だった。

市内事業所・市民団体アンケートの結果

市内事業所アンケート・ヒアリング

79事業所がアンケートに回答、そのうち5事業者にヒアリングを実施した。

- 25事業所が生物多様性に関する自社の企業方針や行動指針を策定し、HP等に掲載していることがわかった。
- 6事業所について、自然共生サイト認定を目指して活動していることがわかった。
- ネイチャーポジティブ経営への移行を推進・検討している事業所は10箇所に留まった。
- 生物多様性の保全に関する取り組みについて、「行政、市民団体などとの連携により取り組むべき」と、「取り組むべきかどうかわからない」が同数程度となり、情報が不足していることが明らかとなった。

市民団体アンケート・ヒアリング

20団体がアンケートに回答、そのうち3団体にヒアリングを実施した。

- 市民団体の課題として、会員の不足、活動資金の不足、高齢化といった活動継続に直結するものが多く挙げられた。
- 市に求めることとしては補助金と、他団体と交流できるイベントが挙げられた。
- 情報は市の公式HPの閲覧や他団体のイベントに参加することで収集していることがわかった。
- 仲間が増えた、感謝の言葉、活動紹介といった人とのつながりをやりがいとしている団体が多く見られた。

総括

- 少数派ではあるが、生物多様性の保全に対し、指針の策定や具体的な活動を実施している事業所があることがわかった。
- 事業所について、生物多様性への取り組みやネイチャーポジティブ経営への移行を進めようとしているが情報が足りず、どのように進めていけばいいか苦慮しているような結果を得た。
- 市民団体について、活動の継続に必要な人的、資金的な補助が必要であるとともに、仲間の増加や感謝の言葉などやりがいがあったことがわかった。

計画策定の基本事項

1 生物多様性地域戦略について

- 戦略の趣旨
- 位置づけ
- 計画期間 2026年度から2035年度
(2030年度に中間チェック)



2 生物多様性はなぜ重要？

- 生物多様性とは

神戸ならではの具体例や写真を掲載。詳細は二次元バーコードから説明サイトに飛んでもらう、など

3 神戸市の生物多様性の特徴と取り組み

- 生態系の特徴
- 生物多様性に関する代表的な取り組み

地図で視覚的に分かるように表現

4 神戸市の生物多様性を取り巻く現状と課題

- 生き物による生態系被害（外来種、シカ・イノシシ）
- 生態系ネットワークの連続性の分断
- 里山林や耕作地の管理放棄
- 海域の藻場や干潟の消失
- 地球温暖化

5 新しい地域戦略のめざすもの

【将来像】多様ないのちを育む豊かな自然とその恵みを次世代につなぐ自然共生都市“こうべ” (現行戦略将来像)

三本柱の基本戦略

基本戦略① 豊かな自然を守り育てる

基本戦略② 自然の力を活かし、社会を支える

基本戦略③ 自然の豊かさを知り、活動し、未来の担い手を育てる

新しい視点・重視する視点

- ネイチャーポジティブの実現
- 自然を活かした解決策(NbS)やグリーンインフラ（防災・減災、気候変動への対応など）
- 里山資源の活用等を通じた持続可能な取り組み
- 企業によるネイチャーポジティブ経済への移行促進（TNFD等）
- 神戸の自然・生きものの特徴・現状を踏まえた地域性を考慮
- 科学的根拠に基づく視点
- 市民・学校・企業・NPO等との連携
- 幼少期から自然に触れる環境教育
- 生物多様性保全の意識の向上や行動変容を促す
- 森林整備・農業などの分野との連携

6 進行管理と推進体制

- 様々な主体による情報共有・意見交換の仕組みの検討
- 学識者ヒアリング等を通じた進行管理
- 庁内の連携強化

基本戦略の構成変更

現行戦略

基本戦略① 場をまもる・つくる

基本戦略② 人をそだてる

基本戦略③ 活動をつなぐ・ひろげる

基本戦略④ 恵みを持続的に活用する

基本戦略⑤ 情報をつめる・つたえる・見せる

新戦略

自然環境の保全・再生・創出

基本戦略① 豊かな自然を守り育てる

～生物多様性豊かな自然環境を保全・再生・創出し、
次世代に継承する～

NbS※と資源利用・循環

基本戦略② 自然の力を活かし、社会を支える

～自然が生み出す資源の循環を促進し、
自然の機能を生かした社会課題の解決を進めていく～

市民や事業者の行動変容や相互連携

基本戦略③ 自然の豊かさを知り、活動し、
未来の担い手を育てる

～市民等が自然の恵みや価値を認識し、行動や担い手育成につなげる～

※ NbS (Nature-based solutions : 自然を基盤とした解決策)
自然の機能を活用して社会的課題 (気候変動・災害等) を解決に導く考え

【基本戦略の構成変更の考え方】

- ・ 「自然環境そのもの (フィールド) の整備等 (現行プラン①) 」 「 NbSと資源利用・循環 (現行プラン④) 」 「市民や事業者の行動変容や相互連携 (現行プラン②、③、⑤) 」 の3本柱にまとめる
- ・ 「〇〇を守り (新プランで提示する活動)、△△につなげる (活動によって実現したい姿) 」 などといった戦略の方針+それによって実現する形の表現とする

基本戦略①「豊かな自然を守り育てる」

～生物多様性豊かな自然環境を保全・再生・創出し、次世代に継承する～

【方向性・考え方】

「ネイチャーポジティブ」や「科学的根拠に基づく視点」を盛り込んだ内容とする。
また、外来生物対策を強化する。

【主な方針】

- ① 多様な生物の生息・生育環境の保全・創出
 - ・ 田園・河川・森林・市街地などをつなぐ生態系ネットワークの保全・再生
 - ・ 公園や事業所等の緑地整備や管理の推進
 - ・ 自然共生サイトの認定に向けた支援の実施
- ② 人の手が入らないこと等による生物多様性の喪失・恵みの低下への対応
 - ・ 重要な里地・里山の保全・管理と里山地域の再生に向けたモデル的取り組みの推進と仕組みづくり
- ③ 侵略的外来種対策
 - ・ 特定外来生物（アライグマ、クビアカツヤカミキリ等）の捕獲、駆除等の対策強化
- ④ 野生鳥獣被害防止対策
 - ・ センサーカメラなどのICT活用も含めた、シカの侵入・定着防止対策の更なる強化

※青字は新たに盛り込む内容

【指標案】

- ◆ 自然共生サイト（OECM）の認定登録数（または認定面積・割合など）
- ◆ シカを六甲山に定着させない

【行動指針】

基本戦略に沿った市民や事業者の行動指針を記載

基本戦略②「自然の力を活かし、社会を支える」

～自然が生み出す資源の循環を促進し、自然の機能を生かした社会課題の解決を進めていく～

【方向性・考え方】

森林（里山）等の資源の循環利用、生態系（自然環境）を活かした防災・減災、気候変動の緩和の推進、人々の健康と福祉の向上を盛り込んだ内容とする。

【主な方針】

- ① 森林（里山）等の資源の循環・活用
 - ・森林等の資源を活用し循環させる取り組みの促進（こうべ森と木のプラットフォーム等）
- ② 自然の多様な機能を生かした社会課題の解決
 - ・ブナ林（夏緑樹林）の保全・再生、藻場の育成等
 - ・生態系を活かした防災・減災の推進(Eco-DRR)
 - ・都市部の緑化促進（気候変動の緩和）
- ③ 農水産業の振興
 - ・生産の担い手の確保、農水産物のブランド化、地産地消の推進
- ④ 環境保全型農水産業の推進
 - ・有機農業の推進　・化学肥料使用料の低減 + 市内循環型資源の利用（BE KOBE農産物）
- ⑤ 農村地域の活性化

※青字は新たに盛り込む内容

【指標案】

- ◆持続可能な市内の木材の流通量
- ◆ブルーカーボン（藻場）の面積
- ◆防災林整備の面積

【行動指針】

基本戦略に沿った市民や事業者の行動指針を記載

基本戦略③ 「自然の豊かさを知り、活動し、未来の担い手を育てる」

～市民等が自然の恵みや価値を認識し、行動や担い手育成につなげる～

【方向性・考え方】

生物多様性保全のための意識向上や、行動変容、幼少期からの環境学習支援を盛り込み、企業のネイチャーポジティブ経営、企業による保全活動、里山移住を促進する。

【主な方針】

- ① 地域の自然から学ぶ取り組みの推進
 - ・神戸の豊かな自然環境を活かした、野外活動やワークショップ等、環境学習の促進
- ② 環境学習の機会の創出・確保
 - ・幼少期の環境学習（自然体験を通じて豊かな感性を育む）の実施、支援の推進
- ③ 人材の育成
 - ・森林整備人材やボランティアなど、新たな担い手の育成・確保の推進
- ④ 市民団体などによる生物多様性を保全するための制度整備・運用（補助金など）
- ⑤ 保全活動への参画促進に向けたしくみづくり
 - ・企業のネイチャーポジティブ経営に向けた支援
 - ・企業による保全活動の支援の促進
- ⑥ 主体間の連携促進、各主体の活動促進に寄与する取り組みの実施
- ⑦ 生物の生息・生育情報などの情報収集と発信
 - ・環境DNA調査、市民参加型調査など各種調査の推進

※青字は新たに盛り込む内容

【指標案】

- ◆外来生物展示センターの来場者数（団体数）
- ◆小学生向け出前授業の実施回数

【行動指針】

基本戦略に沿った市民や事業者の行動指針を記載